

包括連携協定に基づく

認知症に関する意識調査

明治安田生命

今日と未来を、つなぐ。



日本生命

一生涯のパートナー

第一生命



島根県

Shimane Prefectural Government

令和6年3月
島根県高齢者福祉課
地域包括ケア推進室

© Shimane Prefectural Government

自分のサイズで、
生きていい。

1 調査概要

調査目的

- ・ 県民の認知症に対する意識の現状把握
- ・ 調査結果を踏まえた認知症施策の検討

調査時期

令和5年4月1日～令和6年2月13日

調査方法

包括連携協定を結ぶ生命保険3社による調査票の持参・回収、また、県のWebモニターによるオンライン調査

調査対象

明治安田生命・日本生命・第一生命
3社の顧客及び顧客候補および県のWebモニター

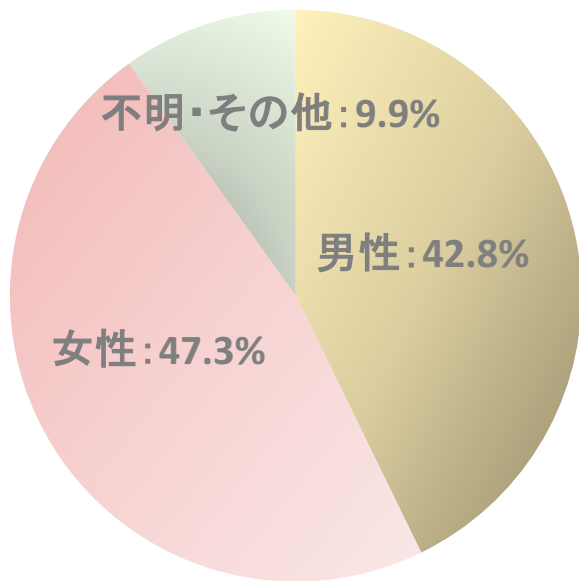
回答者数

7,492名

2 回答者（性別・年代）

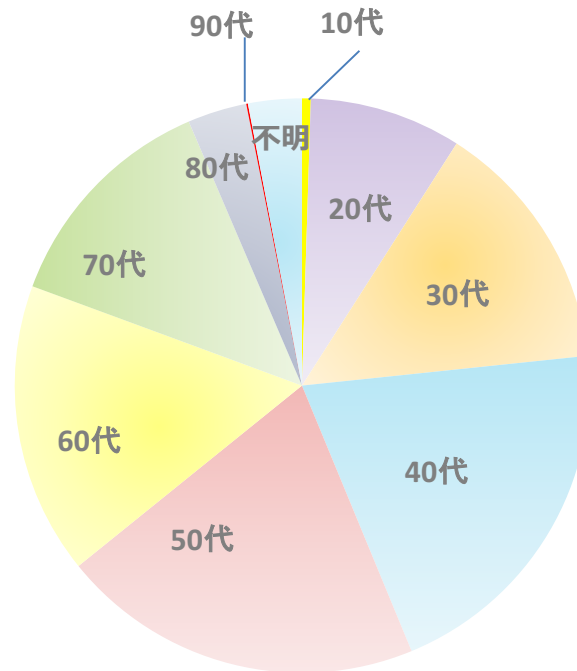
性別

男性：3,204名
女性：3,545名
不明：743名



年代

10代：37名、20代：641名
30代：1,071名、40代：1,530名
50代：1,530名、60代：1,231名
70代：969名、80代：250名
90代：7名、不明：226名



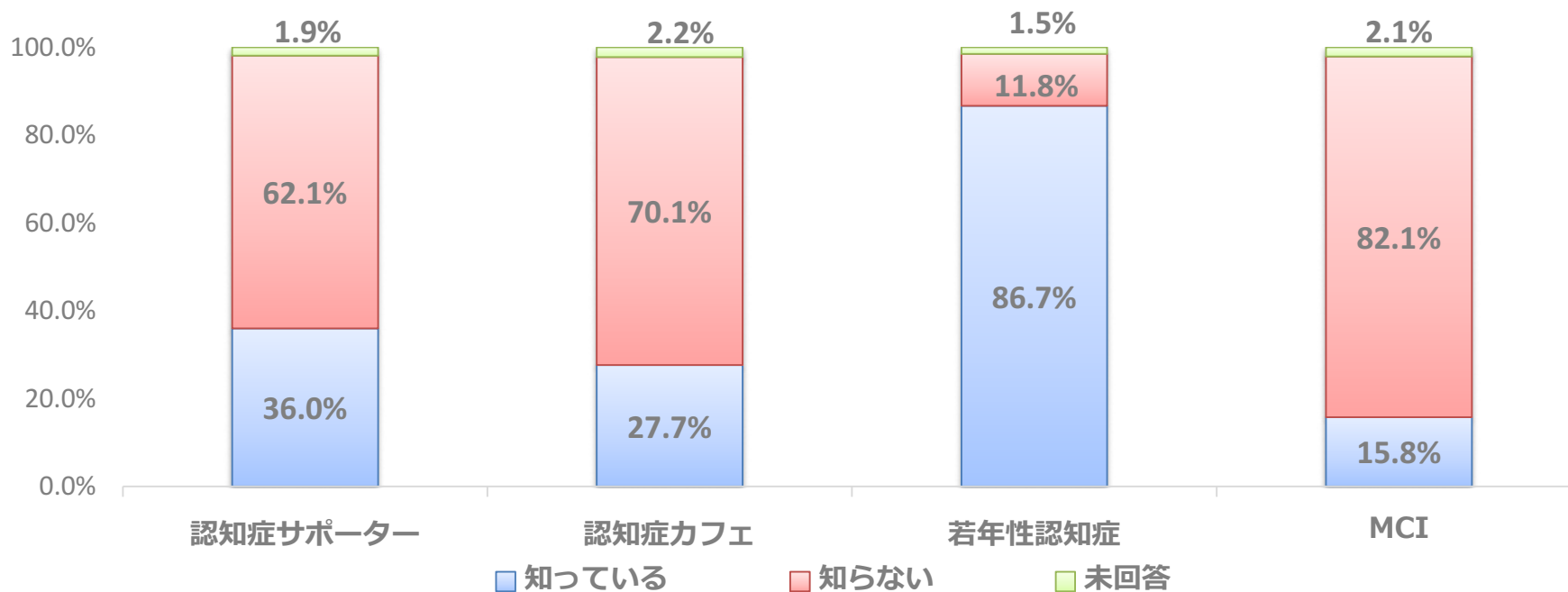
3 調査項目（1）

認知症に関する次の言葉はご存じですか？

「知っている」と答えた割合

(対前年比)

① 認知症サポーター	36.0%(-1.4%)
② 認知症カフェ (オレンジカフェ)	27.7%(+2.4%)
③ 若年性認知症	86.7%(+0.8%)
④ MCI	15.8%(+0.7%)

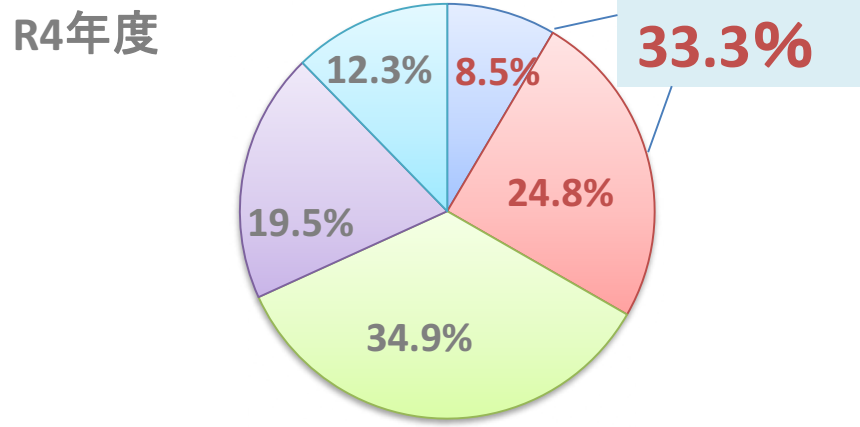
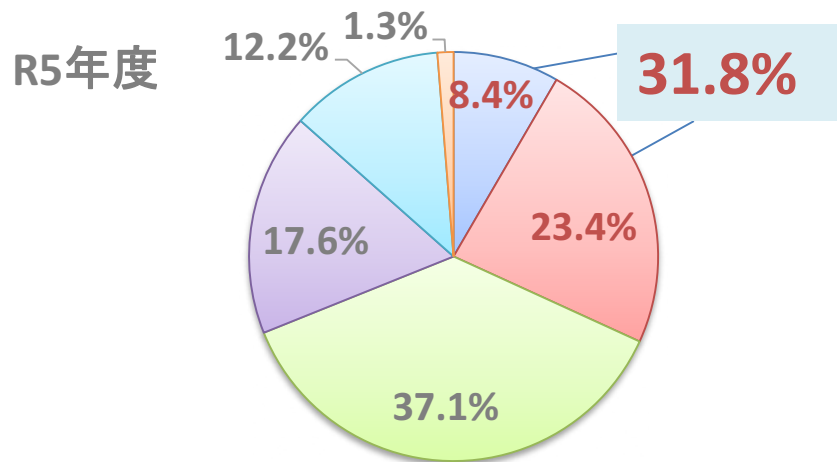


3 調査項目 (2-1)

認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？ 1つだけお答えください

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	8.4%(-0.1%)
<input type="checkbox"/> 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	23.4%(-1.4%)
<input type="checkbox"/> 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる	37.1%(+2.2%)
<input type="checkbox"/> 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	17.6%(-1.9%)
<input type="checkbox"/> 症状が進行していき、何もできなくなってしまう	12.2%(-0.1%)
<input type="checkbox"/> 無回答	1.3%

※ 誤って2つの選択肢を選択した回答があった



自分で工夫しながら...
 医療・介護などの...
 介護施設に入って...
 周りの人に迷惑をかけ...
 症状が進行して...
 無回答

3 調査項目（2-2）

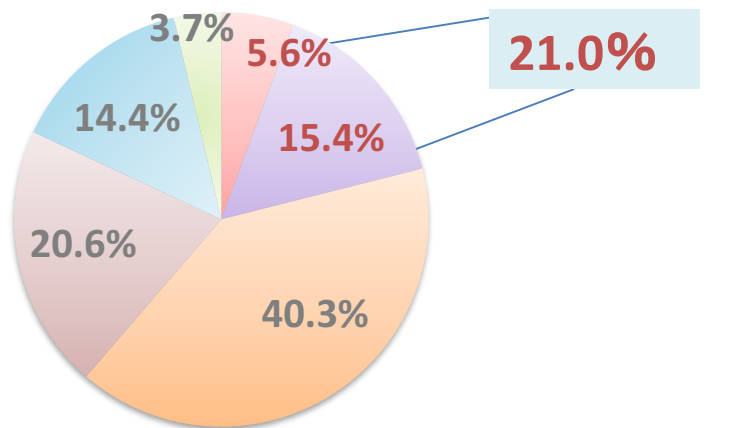
認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？ 1つだけお答えください

※ 認知症の人と接したことがないと答えた人のみ

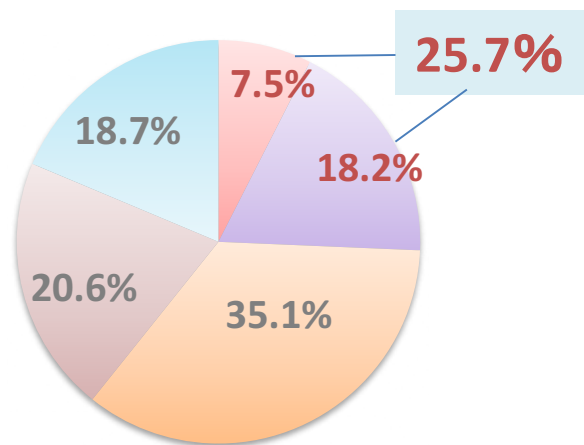
	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 自分で工夫しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	5.6%(-1.9%)
<input type="checkbox"/> 医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる	15.4%(-2.8%)
<input type="checkbox"/> 身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートが必要となる	40.3%(+5.2%)
<input type="checkbox"/> 周りの人に迷惑をかけ、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	20.6%(0%)
<input type="checkbox"/> 症状が進行していき、何もできなくなってしまう	14.4%(-4.3%)
<input type="checkbox"/> 無回答	3.7%

※ 誤って2つの選択肢を選択した回答があった

R5年度



R4年度

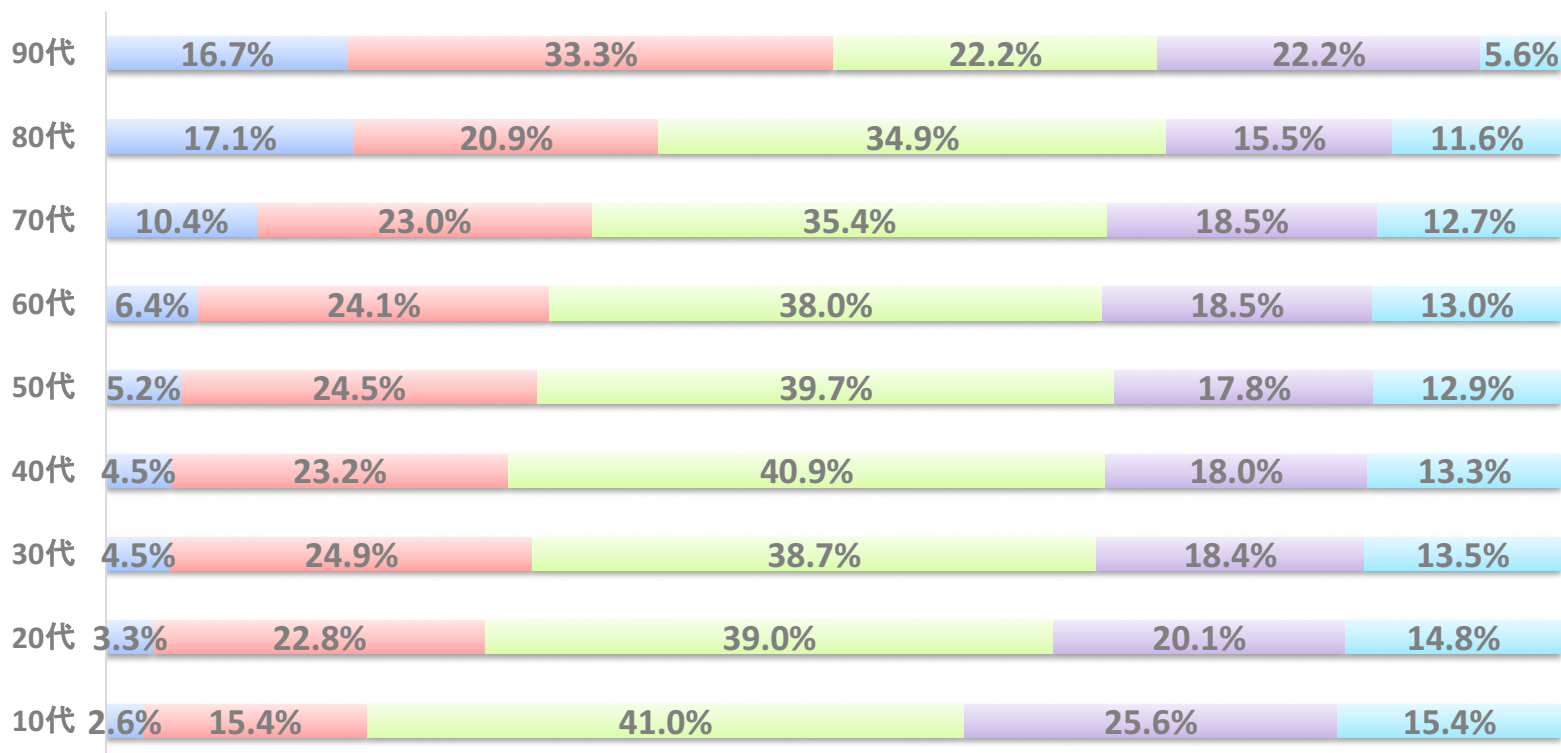


自分で工夫しながら...
 医療・介護などの...
 介護施設に入って...
 周りの人に迷惑をかけ...
 症状が進行して...
 無回答

3 調査項目（2-3）

認知症に対して、どんなイメージを持っていますか？
1つだけお答えください

認知症に対するイメージ（年代別）



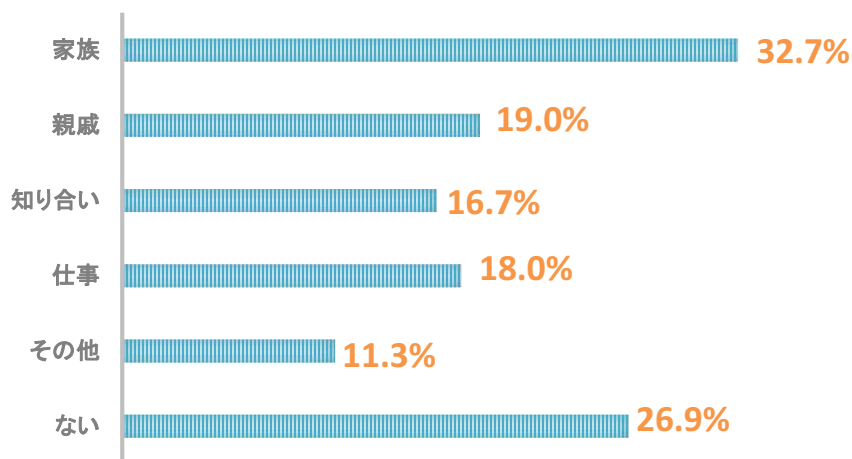
- 自分で工夫しながら今まで暮らしてきた地域で生活ができる
- 医療・介護などのサポートを利用しながら今まで暮らしてきた地域で生活ができる
- 身の周りのことができなくなり介護施設に入ってサポートが必要となる
- 周りの人に迷惑をかけ今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる
- 症状が進行していき何もできなくなってしまう

3 調査項目（3）

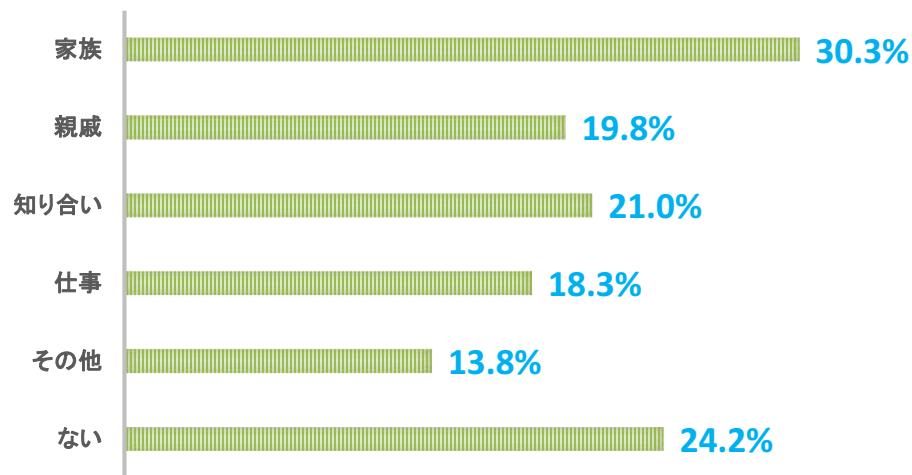
今までに認知症の人と接したことがありますか？ (複数回答可)

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 家族の中に認知症の人がいる(いた)	32.7%(+2.4%)
<input type="checkbox"/> 親戚の中に認知症の人がいる(いた)	19.0%(-0.8%)
<input type="checkbox"/> 知り合いや友人に認知症の人がいる(いた)	16.7%(-4.3%)
<input type="checkbox"/> 仕事を通じて接したことがある	18.0%(-0.3%)
<input type="checkbox"/> その他の場面で接したことがある	11.3%(-2.5%)
<input type="checkbox"/> 接したことがない	26.9%(+2.7%)

R5年度



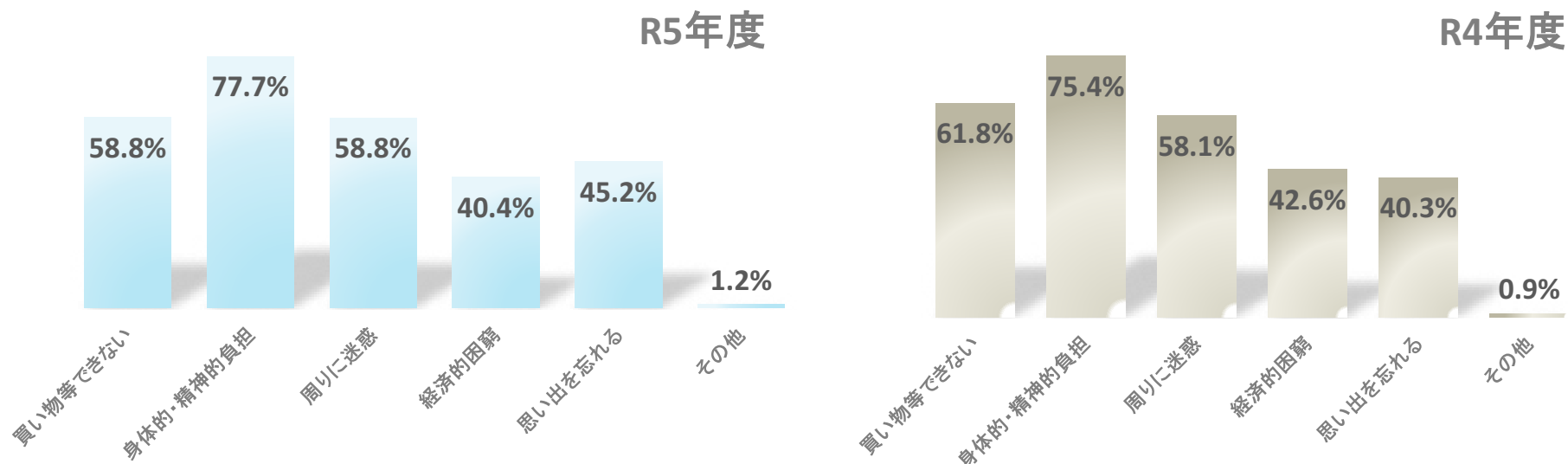
R4年度



3 調査項目（4）

ご自身が認知症になったら、
どのようなことを不安に感じるとお思いますか？（複数回答可）

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 買い物や車の運転など、これまで出来ていたことができなくなるのではないかと	58.8%(-3.0%)
<input type="checkbox"/> 家族に身体的・精神的な負担をかけるのではないかと	77.7%(+2.3%)
<input type="checkbox"/> 家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないかと	58.8%(+0.7%)
<input type="checkbox"/> 経済的に苦しくなるのではないかと	40.4%(-2.2%)
<input type="checkbox"/> 家族や、大切な思い出を忘れてしまうのではないかと	45.2%(+4.9%)
<input type="checkbox"/> その他	1.2%(+0.3%)

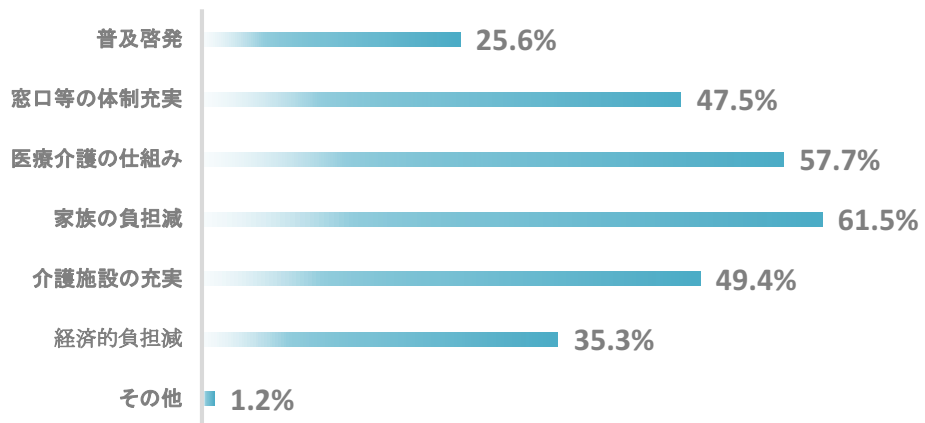


3 調査項目（5）

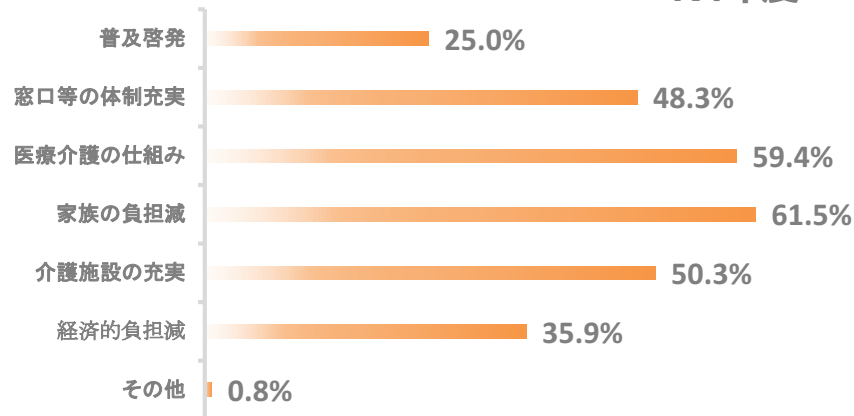
認知症について県や市町村がどのようなことに重点をおくべきだと思いますか？（複数回答可）

	(対前年比)
<input type="checkbox"/> 普及啓発や情報提供	25.6%(+0.6%)
<input type="checkbox"/> 相談窓口・体制の充実	47.5%(-0.8%)
<input type="checkbox"/> 早い段階から利用できる医療や介護などのしくみづくり	57.7%(-1.7%)
<input type="checkbox"/> 家族の身体的・精神的な負担を減らす取り組み	61.5%(0%)
<input type="checkbox"/> 認知症の人が利用できる介護施設の充実	49.4%(-0.9%)
<input type="checkbox"/> 仕事と介護の両立支援を含めた経済的負担を減らす取組	35.3%(-0.6%)
<input type="checkbox"/> その他	1.2%(+0.4%)

R5年度



R4年度



4 考察（まとめ）

- ◆ 認知症に関する言葉の理解度について問う設問では、認知症サポーターに関しては前年度比較で**-1.4%**という結果となった。認知症カフェは**+2.4%**、若年性認知症、MCIはそれぞれが**+0.8%**、**+0.7%**で微増という結果であった
- ◆ 認知症に対するイメージについては、「今まで暮らしてきた地域で生活ができる」と答えた割合は**31.8%**であり、前回より低い結果となった。年代が下がる毎に認知症に対するマイナスイメージが強い傾向にあり、**10代では82%の人が地域での生活は困難と考えている**
- ◆ 認知症の人と接したことがないと答えた人に限ると、「今まで暮らしてきた地域で生活ができる」と答えた割合は**21%**と、対前年比**-4.7%**という結果となった

4 考察（まとめ）

- ◆ 「認知症になったら、どんなことが不安か」については、「家族に負担をかける」が最も多く**77.7%（対前年比+2.3%）**となった。その他には、孤独死を不安視する意見が挙げられた
- ◆ 「県や市町村が重点をおくべきこと」についても、全体として前年度同様の割合で、その中でも「家族の身体的・精神的な負担を減らす取り組み」が最も多く、**61.5%（対前年比±0%）**であった
- ◆ 回答者からは**フレイルや認知症の予防対策の充実**を求める声が複数見られた。また、「認知症を患う本人は辛いという事を知ってほしい」という意見もあった
- ◆ 本調査は今後も継続し、県民の認知症に対する意識の経年変化を把握する

地域・医療・介護の連携

- ◆ **相談窓口体制の充実**
(メディアを活用した周知)
- ◆ **予防対策の充実**
(認知症に関連する病気や症状の予防対策の充実)
- ◆ **情報提供**
(市町村担当者はじめ関係者を対象とした研修会等の開催)

認知症に対する意識向上

- ◆ **普及啓発の促進**
(10代・20代の若年層、働き盛りへのアプローチ)
- ◆ **認知症サポーターの養成**
(認知症サポーター養成講座等を通し、認知症を正しく理解する人、認知症患者を支援する人を増やす)